



平成26年度 農林水産省 産地活性化総合対策事業
国産花きイノベーション推進事業(花育活動全国推進事業)

学校・地域活動

はないく
花育読本・指導書

～育てよう 楽しもう 花作り～

**「花をきれいに長く楽しむ
栽培管理」**



- 「花育読本」活用にあたって
- 花育読本・指導書

全国花育活動推進協議会

はじめに

花や緑の多様な効能に着目し、花や緑を教育、地域の活動等に取り入れる取り組みである「花育」の推進を図ることは、児童・生徒の成長期において、花と緑に親しみ・育てる機会を提供し、やさしさや美しさを感じる情操面の向上等が図られ、また、地域活動においても、花や緑を介した世代交流により、地域のつながりを深めることが期待されています。

このため、全国花育活動推進協議会は、このような花育の社会的な効果や意義を踏まえ、花き業界関係者、教育関係者、都市緑化関係者及び地方自治体の教育・農林・都市緑化担当部局等との連携を図りつつ、花育活動の取り組みを全国的な運動として推進するために平成20年3月28日に発足し、これまで、花育活動の普及啓発、モデル地区での花育活動、花育アドバイザーの登録・紹介及び花育活動に関するアンケート調査等を実施してきたところであります。

本年度は、農林水産省の平成26年度産地活性化総合対策事業のうち国産花きイノベーション推進事業(花育活動全国推進事業)を活用し、これまでのモデル地区での花育活動の成果を生かしつつ、学校や地域での活動を対象とした『花育読本』を作成しましたので、今後この花育読本が全国各地で積極的に活用されて、地域の方々と花育アドバイザーとの緊密な連携のもとに効果的な花育活動が展開されることを期待しております。

おわりに、この花育読本の作成に当たり、農林水産省生産局並びに花き業界の専門家や教育関係者で構成する花育活動推進検討会及び花育副読本作成小委員会の委員をはじめ多くの方々にご協力・ご指導並びにご執筆頂きましたことに対して厚くお礼申し上げます。

平成27年3月

全国花育活動推進協議会

会長 今西 英雄

「花育活動推進検討会」

順不同

所 属・役 職 名	氏 名
東京テクノ・ホルティ園芸専門学校 講師、グリーンアドバイザー	中道 光子
日本ハンギングバスケット協会 理事	山口 まり
日本ハンギングバスケット協会 理事	上田 奈美
公益財団法人日本いけばな芸術協会 理事	新藤 華浩
一般社団法人日本造園建設業協会 技術調査部長	野村 徹郎
生活科教育研究会 会長	三神 雄司
元川口短期大学 こども学科 教授	丹伊田 弓子
日本生活科・総合的学習教育学会 顧問	吉田 豊香

「花育副読本作成小委員会」

所 属・役 職 名	氏 名
元川口短期大学 こども学科 教授	丹伊田 弓子
公益財団法人全国学校農場協会 全国高等学校農場協会 事務局次長	森田 恒夫
公益財団法人全国学校農場協会 常務理事 千葉県立鶴舞桜が丘高等学校 教諭	風間 龍夫
神奈川県小田原市立泉中学校 教頭	石塚 英雄
日本ハンギングバスケット協会 理事	上田 奈美

「花育読本」活用にあたって

花育副読本作成小委員会 委員

元川口短期大学 こども学科 教授 丹伊田弓子

花育実践も、その幅を広げ新しい取り組みが出てきています。その一つである「大切な人のために花をさかせよう」という小学校2年生生活科で行われた「ラン栽培」の実践に出会いました。きれいに咲いた花を鑑賞するのが「ラン」というイメージを持っていた私は、小学校2年生の子どもが苗からランを育てて、素敵な箱に入れて家族や好きな人に贈る姿に驚きました。さらに贈られた家族の感想を聞いて驚き嬉しくなりました。

ランを贈られた家族がランを囲んでコミュニケーションを深めたり、新たなコミュニケーションを生み出したりしていたのです。それだけではありません、一鉢のランの成長、咲きぶりを通して、わが子の昨日から今日、今日から明日への成長を見つめるきっかけを得たようです。保護者とは、我が子を友達と比べて評価してしまいがちですが、家に持ち帰った「きれいに咲いたラン」は、「こんな花を咲かせることが出来るなんて、うちの子もやるなー」と、我が子だけをしっかり見つめる機会をもたらしたのです。子どもにとって、親が自分の成長を見つめて、成長を感じほめてくれることほど、次の成長の力になることは他にはないと思います。保護者の感想からは、祖父母も含めた家族のいろいろな表情が浮かんできました。

花育の原点「子どもが育ってこそ、栽培活動に意義が生まれる」をまさに語っている、そんな実践が行われています。

花と緑に触れ、もっともっと命を育む喜びを味わってほしい、そして花をめで緑を愛する心を育ててほしい。そんな教育をお手伝いしたいという思いで「花育副読本」の制作は始まりました。

小学校では、生活科・総合的な学習の時間・各教科の発展活動、特別活動などで、中学校では、技術家庭や教科外の活動で、ご活用いただいております。これらが学校での教育活動に、時には潤いを、時には感動を時には癒しを生み出し、子どもたちの心の環境作りに微力ながら、役立てていただいていることを、感謝しております。

今回の「花育読本」も、学校教育ではもとより、地域や様々なコミュニティーでもご活用いただき、「花・緑とともに人が育つ」花育を実践していただきたいと願っています。

【花育読本の内容】

育てよう 楽しもう 花づくり・・・「花をきれいに長く楽しむ栽培管理」

【花育活動】

花育活動のねらいは「花と緑に触れ、もっともっと命を育む喜びを味わってほしい、そして花をめで緑を愛する心を育ててほしい」と言うところにあります。

これまでに作成した「授業の副読本」は、育てた花を生活に取り入れ、生活を豊かにする体験を通して、「命を育む喜び・花をめで緑を愛する心を育ててほしい」と考える授業構成を前提に作

成してきました。

今回は、花育活動のスタートに注目し、「タネまきから始める」花育活動の一助となるものとして『花壇苗栽培』を作成いたしました。

今回は、「苗からスタートする」栽培活動、また「咲いた花を長く楽しむ」ための花育活動に役立てていただきたいという思いで作成いたしました。

今回の冊子が、大切に育てた苗から花の特徴を生かして長く楽しんでいただくためのお手伝いが出来たら幸いです。

自分で咲かせた花に心を寄せてお世話することで、素敵な時間を作り出す活動に役立ててください。

<こんな使い方を>

授業、地域や様々なコミュニティでの交流活動としても幅広く活用していただけるように構成しました。学校教育、社会教育、ボランティア活動等、目的と対象に合わせて活用していただけることを願っております。

○出来るだけ長く楽しみ、一緒に過ごした花にお手紙を書いてみよう

花がら摘みや切り戻しなどの世話の記録をもとに、振り返り、花への感謝の気持ちを手紙に書いたり、物語にしたりして仲間と交換して楽しみましょう。花を育てた時の優しい気持ちがさらに深まるでしょう。

○苗を配って、自分の周りから花育活動を広げよう

(「種まきから始める花壇苗栽培」と合わせてお使いください)

- ・日時を決めて、地域の家庭に苗を配って「家の玄関に一人一鉢咲かせよう」
- ・幼稚園、保育園、施設に苗を持ち込み「一緒に育て、長く咲かせよう」
- ・地域で「○○公園にお花畑を作ろう」のイベント実施、世話を続け長く咲かせよう。

○栽培実践をより豊かにするために

花と緑に触れる活動や、「花育読本」による実践をより確かなものにするため、さらに楽しく広げるために実践者の目線で、欲しい情報が手軽に得られる資料(花育実践者マニュアル)も合わせて作成しました。ご活用ください。

○花育実践に当たって

全国花育活動推進協議会(平成20年3月発足)が、花や緑の専門家である、花育アドバイザー(ボランティア)を紹介いたします。ご活用ください。

お問い合わせ 全国花育活動推進協議会 <http://www.hanaiku.gr.jp>

～育てよう 楽しもう 花作り～ 「花をきれいに長く楽しむ 栽培管理」



もくじ	
1 花を長く楽しむ栽培管理を確認しよう	1
2 栽培の計画をたてよう	2
3 花壇苗を植えつけよう	3
4 花の観賞期間を長くするコツ(その1)	4
5 花の観賞期間を長くするコツ(その2)	5
6 草花の管理記録簿	7

名前

1 花を長く楽しむ栽培管理を確認しよう

種まきをガーデニングのスタート地点とするなら、花壇やコンテナに花壇苗を植えつけるのは、ちょうど中間地点と考えられます。

ここからは、満開のゴールを目指して、花が本来持っている潜在能力を最大限に引き出していきましょう！

それでは、植えつけた花を長く楽しむ栽培管理の大まかなチェックポイントを確認します。



1) 栽培の計画

- 花壇やコンテナの完成した状態をイメージできていますか？
→ 植えつけ後の生育をイメージします。
- 植えつける花は何にしますか？
→ 開花時期、草丈、管理方法などから花の種類を決定します。



2) 花壇・コンテナへの植えつけ

- 植えつけ本数は適切ですか？
→ 植えつけ後の生育を考えて決定します。
- 植えつけの準備はできていますか？
→ 培土・耕うん・肥料・農薬など植えつけの準備を整えます。
- 植えつけまでの手順は確認できましたか？
→ 根の状態によって適切に前処理をおこないます。



3) 管理方法（その1：施肥とかん水）

- 適切なかん水ができていますか？
→ 水のかけ過ぎは厳禁です。
- 適切に肥料を与えていますか？
→ 必要な時に、必要な量を与えます。



4) 管理方法（その2：花のお手入れ）

- 花が咲き終わった後の管理は適切ですか？
→ 上手に管理すれば、さらに長く花を楽しむことができます。
- 病害虫の発生はありませんか？
→ 老化した花や葉は早めに取り除きます。
- 花の草姿が乱れてきていませんか？
→ 生育の仕方から適切な管理を行います。



2 栽培の計画をたてよう

植えた花が生長した状態をイメージするには、植物の性質を知る必要があります。ここでは一年草を中心に紹介していきます。

1) 開花時期からイメージしてみよう！

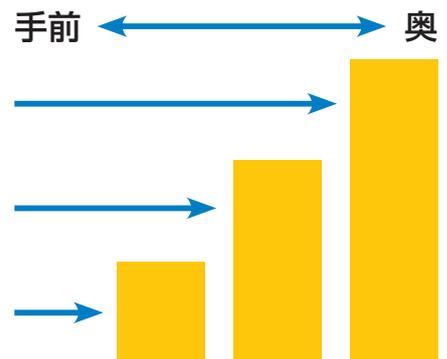
日本には四季があるので、一年中咲き続ける花はありません。四季折々で花を植え替えていくことで花壇を良い状態に保ちましょう！

花壇で楽しむ時期	春から秋	秋から春
草花の例	サルビア、ペチュニア マリーゴールド など	パンジー、 ビオラ、デージー など
使い方	暑い夏をのりきる花壇に	寒い冬をのりきる花壇に

2) 草丈からイメージしてみよう！

草丈の高いものを奥、草丈の低いものを手前に配置すれば、狭い花壇でも立体的に見せることができます。

高いもの	コスモス、ヒマワリ など
中間のもの	サルビア、マリーゴールド ペチュニア など
低いもの	パンジー、アリッサム ガザニア など



3) 管理方法からイメージしてみよう！

植物にあった管理を行えば、観賞期間は驚くほど長くなります。それぞれの植物で、どのような管理方法が必要か整理しましょう！

花から摘み



切り戻し



管理不要



3 花壇苗を植えつけよう

①土づくりを行います(植えつけ約10日前)。

1㎡あたり、完熟たい肥(5kg)、緩効性肥料(50g)、又は普通化成(100g)、苦土石灰(100g)をすき込みながら、約30cmの深さに土を耕し、その後平らに整地します。

プランターの場合は市販の培養土を使います。

→肥料がすでに入っていることが多いです。



緩効性肥料とは

一定期間効果が持続する肥料で、元肥と追肥の両方に利用することができます。

化学反応で溶けにくくしたもののや、肥料の表面を樹脂などで覆ったものなどがあります。

②根鉢を軽くほぐします。

ポット内で根がまわり過ぎている場合は、新しい根の発生を促すため、根鉢を軽くほぐします。

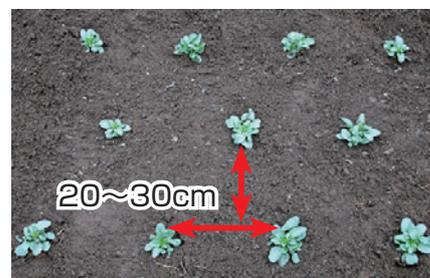
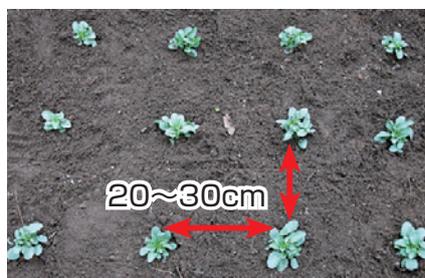
植えつけ適期の苗はそのまま植えつけましょう。



③花壇苗を植えつけていきます。

一般的なプランターの場合は4～5本の花壇苗を、花壇の場合は株間20～30cmで植えつけます。

株元が地面より下がって深植えにならないように注意しましょう。



④十分にかん水します。

プランターの場合、鉢底から水がしみ出るまで与えましょう。

その後は、土の表面が乾いてきたらかん水してください。

雑草とのたたかいに勝つために(除草のコツ)

花壇の場合、株が地面を覆ってくるまでの間に、いかに除草するかがポイントとなります。

熊手やねじり鎌などで、株間を軽く耕す(中耕)ことで、雑草の発生は驚くほど簡単に抑えられます。

さらに、空気の通りがよくなり、花の根の生長も促進されます。

早めの中耕を心がけましょう!



ねじり鎌



熊手

4 花の観賞期間を長くするコツ（その1）

植物を栽培するうえで、かん水と施肥のタイミングはとても大切です。適期に与えれば生育を促進しますが、過剰になってしまうと逆に花の生育を阻害することにもつながります。ここでは、かん水と施肥について紹介します。

1) かん水のタイミング

～コンテナの場合～

土の表面が乾いたら、底から水が流れ出るまでたっぷりかん水しましょう。

受け皿を使っている場合は、受け皿にたまった水は必ず捨てましょう。



『乾いたら たっぷり 株元に』が基本

Point 1 乾いてからかん水

植物は水を吸収するために根を伸ばしていきます。常に水がある状態では、しっかりした根が張ってくれません。一定の間隔で乾湿を繰り返すことが、健全な根の生育には欠かせません。

Point 2 たっぷりとかん水

かん水には植物に水を与えるだけでなく、土壌中に新しい空気を送り込む役割もあります。土の表面だけを濡らしても、土壌中の空気は入れ替わりません。かん水する時は、たっぷり与えることが大切です。

Point 3 株元にかん水

開花している花に直接かん水してしまうと、病気の原因になってしまいます。株元へのかん水を心がけましょう！

～花壇の場合～

植えつけ直後、日照りが続く時期以外は基本的にかん水の必要はありません。

2) 追肥のタイミング

肥料の量が多すぎると、根に障害が起こってしまいます(肥料やけ)。肥料に表示されている量を必ず守りましょう。

効果が1～2ヶ月持続する緩効性肥料が便利です。

除草や中耕、切り戻しなどと同時に起こすと、さらに効果的です。



5 花の観賞期間を長くするコツ（その2）

しっかり手入れして、花が持つ力を引き出そう！

植えつけから時間がたってくると、草姿が乱れてきたり、枯れた花が目立ってきたりしてきます。

ここでは、花のタイプ別の管理方法について紹介していきましょう。

1) 花から摘みで管理していくタイプ

パンジーやベゴニア、マリーゴールドなどは、次々と新しい花を咲かせてきます。

同時に古い花は次々と枯れてきてしまいます。

咲き終わって枯れた(老化した)花は花がらと呼ばれ、残しておくとも株に悪影響をおよぼします。

花がら摘みをしないと…

- 病気の発生源になります。
→特に灰色かび病に注意！
- 種がついて、花つきが悪くなります。
→種が充実するのに栄養がとられてしまう！



①花が老化してきたら花がらを摘みます。

パンジーの場合は、花の根元から花柄(かへい)ごと摘み取ります。花びらだけを摘み取っても、種ができてしまいますので注意しましょう！

マリーゴールドの場合は、花の部分だけを摘み取ります。



②摘み取った花がらは残さないこと。

摘み取った花がらを花壇やプランターの中に残しておくとも、そこに病原菌が繁殖してしまいます。

確実に捨てるのが、病気予防の大切なポイントです。



2) 切り戻しで管理していくタイプ

ペチュニアは茎を伸ばしながら、先に先に花をつけていく性質があります。そのため、花の生長とともに茎が伸びてきて、草姿が乱れてしまいます。そこで、必要となるのが切り戻しの作業です。ここでは、ペチュニアの切り戻し方法を紹介します。



①草姿が乱れてきたら切り戻し適期。

右の写真のように茎が伸びて草姿が乱れてきたら、切り戻しをおこないます。そのままにしておくと、茎の先端部分でしか開花しなくなり、中心部分がさみしくなってきます。



②茎を約1/3の長さに切り戻します。

茎の先端部分に未開花のつぼみもありますが、思い切ってすべての茎を切り戻しましょう！この時、肥料を与えます。もったいないと感じるかもしれませんが、ここですべての茎を切り戻すことで、一斉にわき芽が生育し、次の開花も揃ってきます。



③3～4週間後には元の状態に戻ります。

すべての茎を切り戻したことで、一斉に開花してきます。草姿が乱れるまで(数週間)は、老化した花を取り除くだけでOKです。草姿が乱れてきたら、①に戻れば何回も花を楽しむことができます。



3) 管理を必要としないタイプ

メランポジウムやノースポールは、新しい茎が古い花を覆うように生長し、その先で新しい花をさかせます。そのため、花がら摘みや切り戻しといった管理が不要となります。あまり手をかけられない花壇では、力強い味方となってくれます。



〈作成協力〉千葉県立鶴舞桜が丘高等学校

草花の管理記録簿

○草花の性質について

植物名	開花期 (春から秋・秋から春)	草丈 (高・中・低)	管理方法 (切り戻し・花がら摘み・不要)

○肥料について

肥料名	分類 (速効性・緩効性)	肥効	使用量

○管理・作業記録簿

日付	作業	備考

花育読本・指導書

千葉県立鶴舞桜が丘高等学校 教諭 西野 将司



①花を長く楽しむ栽培管理を確認しよう

1 花を長く楽しむ栽培管理を確認しよう

種まきをガーデニングのスタート地点とするなら、花壇やコンテナに花壇苗を植えつけるのは、ちょうど中間地点と考えられます。ここからは、満開のゴールを目指して、花が本来持っている潜在能力を最大限に引き出していきましょう！
それでは、植えつけた花を長く楽しむ栽培管理の大まかなチェックポイントを確認します。



1) 栽培の計画

- 花壇やコンテナの完成した状態をイメージできていますか？
→ 植えつけ後の生育をイメージします。
- 植えつける花は何にしますか？
→ 開花時期、草丈、管理方法などから花の種類を決定します。



2) 花壇・コンテナへの植えつけ

- 植えつけ本数は適切ですか？
→ 植えつけ後の生育を考えて決定します。
- 植えつけの準備はできていますか？
→ 培土・耕うん・肥料・農薬など植えつけの準備を整えます。
- 植えつけまでの手順は確認できましたか？
→ 根の状態によって適切に前処理をおこないます。



3) 管理方法（その1：施肥とかん水）

- 適切なかん水ができていますか？
→ 水のかけ過ぎは厳禁です。
- 適切に肥料を与えていますか？
→ 必要な時に、必要な量を与えます。



4) 管理方法（その2：花のお手入れ）

- 花が咲き終わった後の管理は適切ですか？
→ 上手に管理すれば、さらに長く花を楽しむことができます。
- 病害虫の発生はありませんか？
→ 老化した花や葉は早めに取り除きます。
- 花の草姿が乱れてきていませんか？
→ 生育の仕方から適切な管理を行います。



今回は、花をきれいに長く楽しむために必要な作業を、「花の選定」「植えつけ」「管理」の3つに分けて紹介していきます。

【花の選定】

花には様々な種類がありますが、個々の花が持つ性質を理解し、自分がどのような花壇や寄せ植えを作りたいのかイメージしてみましょう。

【植えつけ】

次に、苗を植えつけていきます。大切なことは植えつけた時が完成ではないということです。

【管理】

植えつけ後、花にあった適切な管理をおこない、最初にイメージした状態を目指していくことがガーデニングの醍醐味でもあります。

1

代表的な花壇の種類

● 毛せん花壇 (carpet garden)

草丈が低く、同時に開花する花でつくられる花壇です。色違いの花を使うと簡単に模様を描けます。

● リボン花壇 (ribbon garden)

道などに沿って帯状につくる花壇です。花の高低を利用すれば立体的に見せることができます。

● ボーダー花壇 (border garden)

生け垣や塀などに沿ってつくる花壇です。視点が一方向からなので花の配置に注意しましょう。



※花壇の日当たりや水はけなどの環境条件も、あらかじめ把握しておきましょう。



②栽培の計画をたてよう（花の選定）

2 栽培の計画をたてよう

植えつけた花が生長した状態をイメージするには、植物の性質を知る必要があります。ここでは一年草を中心に紹介していきます。

1) 開花時期からイメージしてみよう！

日本には四季があるので、一年中咲き続ける花はありません。四季折々で花を植え替えていくことで花壇を良い状態に保ちましょう！

花壇で楽しむ時期	春から秋	秋から春
草花の例	サルビア、ペチュニア マリーゴールド など	パンジー、 ビオラ、デージー など
使い方	暑い夏をのりきる花壇に	寒い冬をのりきる花壇に

2) 草丈からイメージしてみよう！

草丈の高いものを奥、草丈の低いものを手前に配置すれば、狭い花壇でも立体的に見せることができます。

		手前 ←	→ 奥
高いもの	コスモス、ヒマワリ など	→	→
中間のもの	サルビア、マリーゴールド ペチュニア など	→	→
低いもの	パンジー、アリッサム ガゼニア など	→	→

3) 管理方法からイメージしてみよう！

植物にあった管理を行えば、観賞期間は驚くほど長くなります。それぞれの植物で、どのような管理方法が必要か整理しましょう！



2

ここでは、花の性質を「開花時期」「草丈」「管理方法」の3つに分けて紹介します。

【開花時期】

日本には四季があるため、夏の暑さをのりきれるか、冬の寒さをのりきれるかで2つのグループに分けられます。

現段階では、暑さにも寒さにも強く、一年中花が咲き続ける一年草の草花はありません。

一年中花を楽しみたいなら、最低でも年2回の植え替えが必要になります。

【草丈】

草丈の違う花を上手に配置すれば、立体的な植栽を楽しめます。また、花壇やコンテナを、どの方向から見せたいのかも考慮して花を植える必要があります。

ペチュニアやヒマワリには、高性種（草丈の高いもの）と矮性種（低いもの）があります。このように、同じ花でも品種によって性質が大きく異なるので注意しましょう。

コンテナでの栽培では、草丈の低い花を使うとコンパクトにまとまり管理もしやすいです。



矮性ストックのコンテナ

【管理方法】

大きく花がら摘みと切り戻しに分けましたが、実際にはそれらを並行しておこなう必要があります。植物の生育を見ながら的確に管理していきましょう。

一般的な草花の特性を以下の表にまとめました。

ただし、同じ草花であっても、開花期や草丈は品種によって大きく異なります。また、新しい性質を持つ品種も毎年のように数多く登場しています。

以下の表はあくまでも目安と考えていただき、詳しくは各種苗会社のホームページなどで確認してください。

種 類	科 名	開花期	草丈	管理方法
アリッサム	アブラナ科	3月～6月 9月～11月	低	管理不要
インパチェンス	ツリフネソウ科	6月～10月	中	花がら摘み・切り戻し
エキザカム	リンドウ科	6月～9月	中	切り戻し
ガザニア	キク科	5月～10月	低	花がら摘み
キンギョソウ	ゴマノハグサ科	3月～6月	中～高	花がら摘み・切り戻し
クリサンセマム ノースポール	キク科	11月～6月	中	管理不要
ケイトウ	ヒユ科	7月～10月	低～高	管理不要
コスモス	キク科	7月～11月	高	切り戻し
サルビア	シソ科	5月～11月	中	切り戻し
ストック	アブラナ科	3月～5月	低～高	切り戻し
ゼラニウム	フウロソウ科	4月～11月	中	花がら摘み・切り戻し
ダイアンサス	ナデシコ科	4月～10月 (四季咲き性もあり)	中～高	切り戻し
ニチニチソウ	キョウチクトウ科	6月～10月	中	切り戻し
ハボタン	アブラナ科	11月～3月	低	管理不要
パンジー	スマレ科	11月～6月	低	花がら摘み
ヒマワリ	キク科	7月～9月	低～高	管理不要
プリムラ ポリアンサ	サクラソウ科	12月～4月	低	花がら摘み
ベゴニア センパフローレンス	シュウカイドウ科	4月～10月	中	花がら摘み・切り戻し
ペチュニア	ナス科	4月～10月	低～中	花がら摘み・切り戻し
マリーゴールド	キク科	5月～10月	中	花がら摘み
メランポジウム	キク科	5月～11月	中	管理不要



③花壇苗を植えつけよう (植えつけ)

3 花壇苗を植えつけよう

①土づくりを行います(植えつけ約10日前)。

1㎡あたり、完熟たい肥(5kg)、緩効性肥料(50g)、又は普通化成(100g)、苦土石灰(100g)をすき込みながら、約30cmの深さに土を耕し、その後平らに整地します。
 プランターの場合は市販の培養土を使います。
 →肥料がすでに入っていることが多いです。



緩効性肥料とは

一定期間効果が続く肥料で、元肥と追肥の両方に利用することができます。
 化学反応で溶けにくくしたのものや、肥料の表面を樹脂などで覆ったものなどがあります。

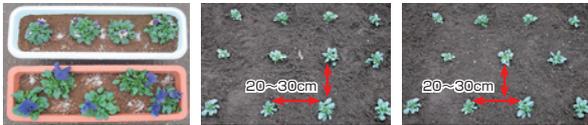
②根鉢を軽くほぐします。

ポット内で根がまわり過ぎている場合は、新しい根の発生を促すため、根鉢を軽くほぐします。
 植えつけ適期の苗はそのまま植えつけましょう。



③花壇苗を植えつけていきます。

一般的なプランターの場合は4～5本の花壇苗を、花壇の場合は株間20～30cmで植えつけます。
 株元が地面より下がって深植えにならないように注意しましょう。



④十分にかん水します。

プランターの場合、鉢底から水がしみ出るまで与えましょう。
 その後は、土の表面が乾いてきたらかん水してください。

雑草とのたたかいに勝つために(除草のコツ)

花壇の場合、株が地面を覆ってくるまでの間に、いかに除草するかがポイントとなります。
 熊手やねじり鎌などで、株間を軽く耕す(中耕)ことで、雑草の発生は驚くほど簡単に抑えられます。
 さらに、空気の通りがよくなり、花の根の生長も促進されます。
 早めの中耕を心がけましょう!



ねじり鎌

熊手

3

花の性質がわかり、いよいよ苗を植え付けるわけですが、その前に土づくりの作業が残っています。

花を美しく咲かせるために、まずは『よい土』を作っていきます。

目指すのは…

○排水性のよい土

→過度な水分は植物の大敵です。

○保水性のよい土

→排水性が良すぎても土が乾燥しすぎて、必要以上にかん水の手間がかかります。

○通気性のよい土

→植物の根も呼吸しています。

土の中にも空気の通り道が必要です。

○保肥性のよい土

→土が肥料を保持する力が必要です。

ここでは、新たに花壇を作ることを想定して、土づくりのポイントを紹介します。

1. 約30cmの深さまで掘り起こして、雑草の根や石などをきれいに取り除きます。

この作業を天地返しといい、スコップやくわを使うと作業しやすいです。

2. 完熟たい肥、緩効性肥料、苦土石灰をすき込みます。

→日本の土は基本的に酸性ですので、あらかじめ石灰で中和しておくことが重要です。

3. レーキで土の表面を平らにならし、1週間ほどねかせて土づくり完了です。



左から くわ、スコップ、レーキ



左から 完熟たい肥、緩効性肥料、苦土石灰

生産農家などでは独自のブレンドで赤土、ピートモス、腐葉土、パーライトなどを混合し、蒸気消毒をおこなって培養土としています。

プランターの場合、培養土を使えば土作りの必要はありませんが、一度使ったものを再利用する時には、注意が必要です。

花壇と同じように、植物の残渣をきれいにとり除き、天気の良い日に日光消毒しておきましょう。また、花壇苗を植え付けるときは、元肥として緩効性肥料を適量与えることもお忘れなく。



～花壇苗を植えつけるときのポイント～

- 黄色くなった葉や、枯れそうな花はきれいに取り除きましょう。
→そのままにしておくと病気の発生源になるからです。
- ポット内で根がまわり過ぎている場合は軽く根をほぐします。
→そのままでは新しい土となじみにくく、水の吸収も悪くなるからです。
底の部分を手で軽くほぐしたり、ナイフや移植ごてなどで切れ込みを入れたりします。
ただし、直根性の植物では根鉢を崩さないでそのまま植えつけてください。
※鉢替え（一回り大きな鉢への植え替え）も同様の方法で行うことができます。

～植物を植えつける容器のはなし～

植物を植えつける容器（コンテナ）は、鉢、プランター、植木鉢と呼ばれています。

○容器の材料は大きく分けて2つに分けられます。

【プラスチック】

加工しやすいのでバリエーションが豊富です。また、軽いので持ち運びにも便利です。

しかし、通気性が悪いことが欠点です。

【土】

土を低温で焼いて作られた鉢のことで、テラコッタ（素焼き鉢）とも呼ばれます。通気性が良いのが特徴で、植物の生育には適しているといわれています。ただし、重かったり割れやすかったりと、取り扱いには注意が必要です。



○植物の根張りをよくするスリット鉢

ポットや鉢に植えてある植物は限られた空間の中で生きています。

通常のスリット鉢の場合、鉢の中が根でいっぱいになると根が渦巻き状にグルグルまわってしまい、根詰まりを起こしてしまいます。これをサークリングと呼び、根ぐされや栄養不足の原因となります。

一方、鉢の横に切れ込み（スリット）が入っているスリット鉢を使えば、サークリングが起こりにくく、植物の生長にはとても良いといわれています。



【スリット鉢の利点】

- ・通気性が良いので根に空気がいきわたり、健全な植物に育ちます。
- ・水はけが良いので、根ぐされが起こりにくくなります。
- ・鉢の中の土全体を効率的に使うので、植え替えの回数が少なくて済みます。

【スリット鉢の欠点】

- ・通気性が良いので、かん水回数が多くなる。

～コンテナ栽培の特徴～

- 花壇にするスペースがなくても手軽にガーデニングを楽しめます。
- 移動することができるので、季節に応じた管理がしやすいです。
- 培養土を使うことで、土作りに悩まされることがありません。
- 土の量が制限されるので、花壇に比べてかん水の手間がかかります。





④花の観賞期間を長くするコツ（その1）

4 花の観賞期間を長くするコツ（その1）

植物を栽培するうえで、かん水と施肥のタイミングはとても大切です。適期に与えれば生育を促進しますが、過剰になってしまうと逆に花の生育を阻害することにもつながります。ここでは、かん水と施肥について紹介します。

1) かん水のタイミング

～コンテナの場合～

土の表面が乾いたら、底から水が流れ出るまでたっぷりかん水しましょう。受け皿を使っている場合は、受け皿にたまった水は必ず捨てましょう。



『乾いたら たっぷり 株元に』が基本

Point 1 乾いてからかん水

植物は水を吸収するために根を伸ばしていきます。常に水がある状態では、しっかりした根が張ってくれません。一定の間隔で乾湿を繰り返すことが、健全な根の生育には欠かせません。

Point 2 たっぴりとかん水

かん水には植物に水を与えるだけでなく、土壌中に新しい空気を送り込む役割もあります。土の表面だけを濡らしても、土壌中の空気は入れ替わりません。かん水する時は、たっぷり与えることが大切です。

Point 3 株元にかん水

開花している花に直接かん水してしまうと、病気の原因になってしまいます。株元へのかん水を心がけましょう！

～花壇の場合～

植えつけ直後、日照りが続く時期以外は基本的にかん水の必要はありません。

2) 追肥のタイミング

肥料の量が多すぎると、根に障害が起きてしまいます（肥料やけ）。肥料に表示されている量を必ず守りましょう。効果が1～2ヶ月持続する緩効性肥料が便利です。除草や中耕、切り戻しなどと同時におこなうと、さらに効果的です。



4

花を栽培している絵を描いてもらうとします。すると、ほとんどの人がジョウロで花に水をかけている絵を描くと思います。

『植物の世話＝かん水』と考えがちですが、筆者は、『植物の世話＝かん水を我慢すること』だと考えています。

それでは、水は必要ないの？

もちろん必要です。植物は肥料成分を水に溶けたかたちでしか吸収できないからです。

かん水には感覚的な部分もあるので、一言で説明することはとても難しいですが、基本的には、**必要な時に必要な量**を与えることが大切です。

【花壇の場合】

日本は雨が多い国ですので、植えつけ直後以外は基本的にかん水の必要はありません。ただし、真夏の日照りが続く時期や真冬の極端な乾燥が続く時期には必要となります。

【コンテナの場合】

限られた空間の中で生育しているので、必ずかん水が必要になります。

かん水の時に注意するポイントは以下のとおりです。

● 季節によってかん水回数が違う

→春から夏は十分に、秋から冬は控えめに。

ただし、一回のかん水で与える水の量は季節を問わず『たっぷり』です。

● ホースの熱湯に注意

→真夏はホースにたまっている水が熱湯になっていることもあります。水温を確認してから、かん水しましょう。

● 冬場のかん水は暖かい日の午前中に

→寒くなってからかん水すると、土に残った水が凍ってしまい根を痛めてしまいます。



⑤花の観賞期間を長くするコツ（その2）

5 花の観賞期間を長くするコツ（その2）

しっかり手入れして、花が持つ力を引き出そう！

植えつけから時間がたつてくると、草姿が乱れてきたり、枯れた花が目立ってきたりしてきます。

ここでは、花のタイプ別の管理方法について紹介していきます。

1) 花がら摘みで管理していくタイプ

パンジーやペゴニア、マリーゴールドなどは、次々と新しい花を咲かせてきます。

同時に古い花は次々と枯れてきてしまいます。

咲き終わって枯れた（老化した）花は花がらと呼ばれ、残しておくとも株に悪影響をおよぼします。

花がら摘みをしないと…

○病気の発生源になります。

→特に灰色かび病に注意！

○種がついて、花つきが悪くなります。

→種が充実するのに栄養がとられてしまう！



①花が老化してきたら花がらを摘みます。

パンジーの場合は、花の根元から花柄（かへい）ごと摘み取ります。花びらだけを摘み取っても、種ができてしまいますので注意しましょう！

マリーゴールドの場合は、花の部分だけを摘み取ります。



②摘み取った花がらは残さないこと。

摘み取った花がらを花壇やプランターの中に残しておくとも、そこに病原菌が繁殖してしまいます。

確実に捨てるのが、病気予防の大切なポイントです。



5

～花がら摘みはビギナー卒業の証～

○植物に種を作らせないため。

本来、花は人間に見られるためではなく、子孫を残すために咲いています。

花がら摘みをしないで受粉がおこなわれてしまうと、種子を作るために栄養が使われることになり、花つきが悪くなったり、株の寿命が短くなったりしてしまいます。



種ができ始めたパンジー

○病気を予防するため

花がらをそのままにしておくと、病気の発生源となってしまいます。特に、湿度が高い時期には注意が必要です。

インパチェンスの花は咲き終わると自然と落下する性質があり、これをセルフクリーニングと呼びます。このような花は基本的に花がら摘みの必要はありませんが、枯れた花が葉の上や株元に落ちて、病気の発生源になっているのをよく見かけます。

農薬で病気を治療する前に、まずはきれいな環境を作ることを心がけましょう！

○モチベーションを維持するため

花がらが残って見た目が悪くなってくると、植物を世話するモチベーションも下がってきてしまいます。こうなると、植物とふれあう時間も自然と短くなってしまい、さらに状態が悪くなるという悪循環に陥ってしまいます。こうならないためにも、まずはこまめに花がら取りをおこなきましょう！

2) 切り戻しで管理していくタイプ

ペチュニアは茎を伸ばしながら、先に先に花をつけていく性質があります。そのため、花の生長とともに茎が伸びてきて、草姿が乱れてしまいます。そこで、必要となるのが切り戻しの作業です。ここでは、ペチュニアの切り戻し方法を紹介します。



①草姿が乱れてきたら切り戻し適期。

右の写真のように茎が伸びて草姿が乱れてきたら、切り戻しをおこないます。そのままにしておくと、茎の先端部分でしか開花しなくなり、中心部分がさみしくなってきます。



②茎を約1/3の長さに切り戻します。

茎の先端部分に未開花のつぼみもありますが、思い切っですべての茎を切り戻しましょう！この時、肥料を与えます。もったいないと感じるかもしれませんが、ここですべての茎を切り戻すことで、一斉にわき芽が生育し、次の開花も揃ってきます。



③3～4週間後には元の状態に戻ります。

すべての茎を切り戻したことで、一斉に開花してきます。草姿が乱れるまで(数週間)は、老化した花を取り除くだけでOKです。草姿が乱れてきたら、①に戻れば何回も花を楽しむことができます。



3) 管理を必要としないタイプ

メランポジウムやノースポールは、新しい茎が古い花を覆うように生長し、その先で新しい花をさかせます。そのため、花から摘みや切り戻しといった管理が不要となります。あまり手をかけられない花壇では、力強い味方になってくれます。



(作成協力)千葉県立鶴舞桜が丘高等学校

6

～ハイコストかローコストか～

商業施設にある花壇やプランターには、常に満開の花が咲いていることが要求されます。

そのため、たくさんの花が咲いた苗を植えつけ、状態が悪くなるとすぐに新しいものに植え替えていきます。

つまり、花を植え替えるサイクルを短くして良い状態を維持しているわけです。まさにハイコストの管理方法です。

一般の家庭で、このような方法をまねすることはなかなかできません。

ここでは、植えた花を少しでも長く楽しむことを目的としたローコストの管理方法を、ペチュニアを例に紹介していきます。

ペチュニアは、伸びた茎の先端に花をつけていく性質を持っています。

そのため栽培期間が長くなると、茎が伸び過ぎてまとまりがなくなるだけでなく、根元の部分に花が咲かなくなり、見栄えが悪くなってきてしまいます。

このようなときは、思い切って切り戻しをおこないましょう。

条件が良ければ2週間後ぐらいから花が咲き始め、1ヶ月後には切り戻し前よりも良い状態になってきてくれます。

【切り戻し前よりも株が充実してくる理由】

- わき芽が一斉に生長してくるので、茎が増えてきます。
- 茎が増えてくれば、株が充実するだけでなく、たくさんの花が咲くようになります。

切り戻しをおこなうと、いったん花がなくなってしまいますが、ローコストで良い状態を維持するためには必ず知っておきたいテクニックの一つです。

ガーデニングライフを長く楽しむ秘訣

ガーデニングを始めるとき、どのような花を植え付けようかと考えるのはとても楽しいものです。あの花も植えたい、この花も植えたい、もっと大きな花壇に挑戦したい。ビギナーの方が陥りやすい失敗例がここにあります。花の栽培は、予想以上にお金と時間がかかります。

植物の栽培に失敗はつきものですが、ビギナーの方にはまずは成功体験が必要です。まずは一鉢の鉢植えからスタートし、完成度を高めていくことを目指しましょう。花の種類を増やしたり、花壇を大きくしたりするのは、基本的な栽培技術を身につけてからでも遅くありません。

さいごに

今回は花の管理方法について、筆者が農業高校で生徒と一緒に取り組んできたことをもとにまとめさせていただきました。私自身、花と接する毎日が新しい発見（と新しい失敗）の連続で、まだまだ未完成な部分が数多く残っていると感じています。

みなさまには、この資料を少しでも活用していただき、それぞれの楽しみ方でお花と接していただければと思います。

参考文献

『最新 花き園芸ハンドブック』鶴見久男 養賢堂

『ビジュアル 園芸・植物用語辞典』土橋 豊 家の光協会

『覚えたい 鉢花・草花のテクニック』平城好明 柳 宗民 NHK出版編

『栽培上手になる！ビジュアル園芸用語530』小笠原 誓 NHK出版編

「花育活動図鑑」参考データ一覧

参考データは、「花育」ウェブサイトからダウンロードしてご使用ください。

<http://www.hanaiku.gr.jp>

花育資料集

- 基本的な花と緑の知識「花づくり 土づくり」
- 花ごよみ366「花ことば・誕生花」
- 季節の行事と花
- 漢字で見る植物の名前
- 全国の植物園一覧
- 生活と花と緑のQ&A
- 植物に関するQ&A

花育アドバイザー

- 花育アドバイザー登録制度実施要領

平成26年度 農林水産省 産地活性化総合対策事業
国産花きイノベーション推進事業（花育活動全国推進事業）

花育読本・指導書

～育てよう 楽しもう 花作り～

「花をきれいに長く楽しむ栽培管理」

発行日：平成27年3月 発行

編集・発行：全国花育活動推進協議会

連絡先：〒103-0004

東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル4階

一般財団法人日本花普及センター内

電話：03-3664-8739 FAX：03-3664-8743

E-mail：jfdc@jfdc.or.jp



育てる楽しさ、
花咲くよろこび。

<http://www.hanaiku.gr.jp>
編集／発行 全国花育活動推進協議会